

企業名： 愛三工業株式会社

レポート名： 統合報告書 2024

1. この会社が目指す姿が理解できるか（将来）

理解できる。統合報告書 7～8 ページに掲載された「愛三グループが目指すありたい姿」では、2030 年に向けた長期ビジョン（VISION 2030）「この手で笑顔の未来を」が掲げられている。「この手」には、従業員一人ひとりが自分ごととして社会課題に取り組もうとする姿勢が込められており、「笑顔」には、製品を通じて人々の暮らしに貢献し、次世代を担う子どもたちの笑顔を育むという思いが込められているという。このビジョンの実現に向け、足元では「知恵と技術で循環型社会に貢献」「イノベーションに挑戦し続ける人づくりと、『認め合い、活かし合う』風土づくり」「地域と共生し持続的社會に貢献」「信頼されるガバナンス体制の構築」の 4 つをマテリアリティとして特定し、それぞれ関連する取り組みテーマと KPI を設定している。ESG の観点を踏まえた取り組みが進められていることがよく理解できる。さらに 23～24 ページの「価値創造ストーリー」では、2025 年度目標値として売上高 2800 億円、営業利益 140 億円、ROE8.0%が示されており、すでに前倒しでの達成がされている。次期中期経営計画ではよりチャレンジングな目標を定める予定であり、VISION2030 に向けた歩みが着実に進んでいることが読み取れた。

総じて、経済・社会・環境の 3 側面での価値創出を通じた VISION2030 の実現を目指す姿が、明瞭に表現された統合報告書であると評価できる。

2. この会社の競争優位性が理解できるか（現在）

理解できる。愛三工業の競争優位性は、統合報告書全体を通じて繰り返し強調されている「パワートレイン製品事業」にあると読み取れる。実際、2023-2025 年度の中期経営計画では、「既存パワートレイン製品事業の競争力強化とさらなる成長」が基本方針の一つとして掲げられており、同社の主力事業であることが明確になっている。中でも燃料ポンプモジュール（FPM）は同社の競争優位性を象徴する製品である。42 ページでは、2022 年 9 月に株式会社デンソーから FPM 事業を譲受し、市場シェア 39%となったことが記載されている。これにより FPM の業界トップメーカーとしての地位を確立し、長期安定的な収益源を確立しているだろう。また、生産設備の集約によるスケールメリットの追求や、生産体制の内製化による開発力・コスト力の向上も、他社に対する優位点であると理解した。

3. その競争優位性に持続性があるかどうか理解できるか（変化）

理解できる。愛三工業は変化に対応し、競争優位性を将来にわたって維持・発展させるための具体的な施策を講じている。中期経営計画では「既存パワートレイン製品事業の競争力強化」とともに、「技術と強みを活用した脱炭素化に資する新規領域の事業育成」を掲げており、事業ポートフォリオの転換にも注力している。具体的には、まず前述のとおりデンソーから譲受した FPM 事業の自前化を進めることで、長期的に安定した収益構造を築いている。また、電動化システム製品事業やクリーンエネルギー技術活用事業にも着手し、パワートレイン製品依存からの脱却を目指している。今後も積極的な成長投資を続けると思われるため、持続性に関しても問題ないだろう。

4. この会社で自身の人的資本の価値向上を達成できると思うか

達成できると考える。というのも、愛三工業はソフトウェア人材の育成をはじめとした人的資本投資に積極的であり、リスクリング・アップスキリングの機会が豊富に提供されている。例えば、「ソフトウェア人財育成プログラム」では、外部パートナーの協力を得て、実務に直結する基礎技術力の習得を支援しており、新卒・中途採用者ともにキャッチアップできる環境が整っている。また、「愛三カタリバ」では役員・幹部と社員との対話を通じて、働きがいのある職場・風土の創出を目指す取り組みが行われている点も印象的だった。

5. 報告書のよかった点はどこか、どのような改善余地があるか

報告書全体の構成が非常に整っており、イントロダクション部分で経営理念・方針に加えて、沿革や製品の紹介が丁寧にまとめられている点が良かった。特に個人投資家や就職活動中の学生など、会社について十分な知識を持たない読み手でも、事業全体の輪郭をつかみやすい構成となっている点は高く評価できる。一方で、改善余地としては「社員の声」がほとんど見られなかった点が挙げられる。経営方針に対する現場レベルでの納得感がどの程度得られているかが見えづらく、新卒学生の視点ではやや不安が残る。実際私が就職する予定の企業の統合報告書では複数名の社員の対談の様子が掲載されており、そのような項目を追加することで社内文化や職場のリアルな雰囲気を伝えるのも有効だと考えられる。